

令和3年度自治会・町内会アンケート調査結果から

<自治会・町内会の実態と課題>

実態

課題

【構成員】

- ・子育て世帯がほとんどいない：3割
- ・高齢世帯が50%以上：4割
- ・戸建てと集合住宅の混在：6割

【参加率の低下】

- ・加入率：低下
- ・加入世帯：減少
- ・活動への参加者が少ない：5割

【活動内容】

- ・コロナで交流親睦できなかった：半数以上
- ・今後は必要な活動に絞りたい：4割

【担い手不足】

- ・役を担える世帯ない：7割

【連絡手段】

- ・住民への連絡手段
回覧板：7割, SNS：1%
- ・役員同士の連絡手段
対面：7割, SNS：2割

【負担の増加】

- ・負担感：5割
- ・広報物, 集金, 親睦行事などの負担感：大きい

【町内会長】

- ・年齢60代以上：約半数
- ・持ち回り：約半数
- ・任期1年：7割以上

裏付けされる結果に！

(参考)

ビジョンで示した現状と課題

現状

- ・人口減少
- ・少子高齢化
- ・単身世帯増加
- ・ライフスタイルの多様化
- ・地域の多様化

課題

- ・つながり希薄
- ・参加率低下
- ・担い手不足
- ・負担増加

総論

平均的な
京都市の自治会・町内会の姿



- ・約50世帯
- ・高齢世帯が50%以上
- ・会長持ち回りで1年任期
- ・会長60歳以上

実際の相談から

こんな声も寄せられます

各論

例：10世帯の小規模町内会で、高齢世帯ばかりで役を担えず、学区組織を脱退したい

例：まちなか小規模・山間部など、これまでのつながりが濃い一方、世帯数減・高齢世帯多で負担が大きく、このままでは消滅する

例：郊外の大規模住宅地や共同住宅など、転入者同士で構成され、地域への関心が薄く、地域活動の担い手が見つからず解散に至る

全体的な方向性と取組

方向性

取組

ビジョン基本指針1
つながりづくり
・参加促進

担い手を
増やす

- ・「地域のつながりの大切さ」に係る啓発チラシ・ポスターの作成
(転入者, 自治会, 管理組合, 不動産業者向け)
- ・地域活動への助成制度の運用
- ・ICT普及, 活用支援
- ・転入者地域交流支援制度
- ・ポータルサイトリニューアル
- ・啓発冊子 など

ビジョン基本指針2
特性に即した
地域活動

少ない
担い手で
できる

- ・区役所・支所、地域コミュニティサポートセンターの支援
(地域の実情に沿った事例収集と活用, 地域の特性に応じた個別支援)
- ・負担軽減に向けた各種業務の把握・見直し など

ビジョン基本指針3
多様な主体の
連携・協働

外の力を
借りる

- ・地域団体、市民活動団体、地域企業、大学、福祉団体、などとの連携
- ・子ども食堂やコミュニティカフェなど様々な活動団体の取組の見える化・連携 など

次回以降の審議会について

令和4年度第2回(冬ごろ)

- 【ビジョン基本指針1】つながりづくり・参加促進に有効な方策について
- ・「つながりづくり・参加促進」に取り組む委員からの発表(数名程度)
- ・事務局から説明
- ・質疑応答